



川千鳥天網船  
編三第

氷

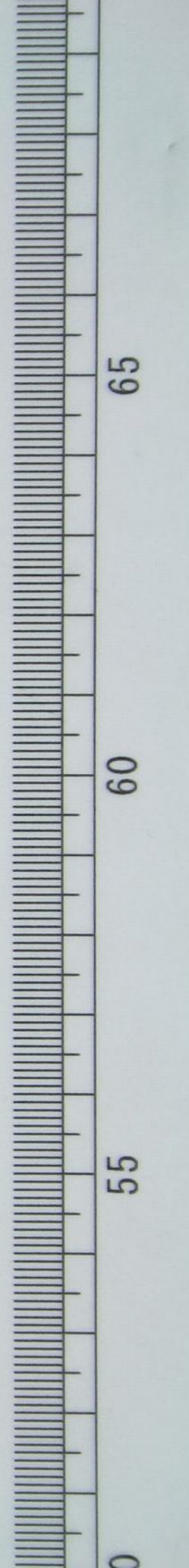
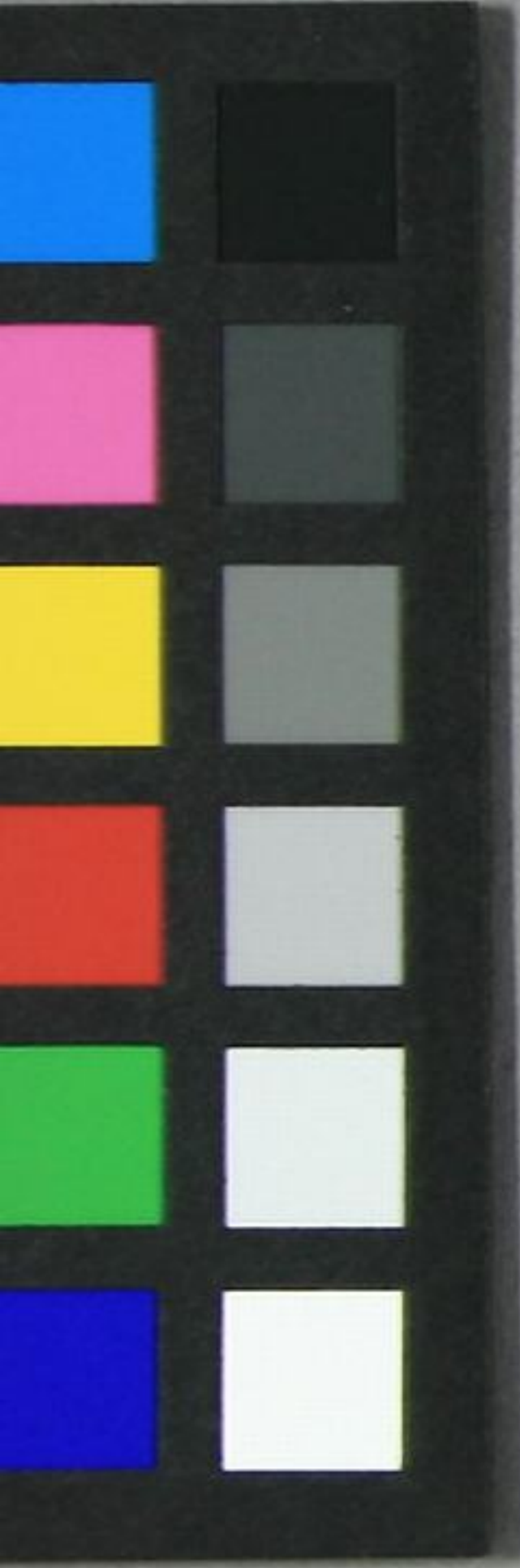
下

中

上









A542  
74

川千鳥

天網船

三編上之巻

柳香化

園畫

金松堂上梓



48-8428

友人桃歌子の吟より  
川島省一郎が履歴と編み川衛天網船と冠せし其川島が世渡りの乗合の船頭の指揮をまげて心の磁石を狂を針路の白浪縁浮れて戀の港入色と慾との二航海寔に壮年時よりむる色界の迷津無差別といふへ果てその身は天の網船の中を膽太く飛つ千鳥があら浪と恐る美名は高く五大洲を真く栄誉ハ難きふらね只原もなと恐る人我が薫陶をりやまら針路とまらるる社會小向け親船の長たる人が我が薫陶をりやまら針路とまらるる社會小向け碗の綱手のゆるみあり楹楯の指揮が肝要あらんと三編大尾の序文より記す華の追風の走り書看客も「ヨーロッパ」と讀做一玉へ

時于明治壬午の立秋金春新道の寓居筆と添  
彩霞園主柳香



川島三十一









川衛天網船三編卷之上

陶米狩頼の富のるくともあゆみしく実家より居るがゆふは省一帯も保

ととふかうまのと逆水波にいとせなるのもゆは根枝の曲ける

をり一度山林を拂ひまげると意外の園を

彩霞園柳香著

とほほしきまきく鶴茶よ  
狩りつふ川橋の思妓

右ををりまひはまご

かざやき

狐鰻

猿茶



町の  
三月  
のつ夜



つぎ 舟合書を初山の腰をめぐり中夜の闇に浮きぬ 欺りくも 舟に揺るまぬ例の癖めて口伝するよあつちよまき川舟の面白かたし  
 ある姿飾と巧まきのみ浮架とあり舟は揺るびも向  
 後の分別もあつちの舟にありあつちの舟  
 朋友の甲乙が揺るびも運て成夜のこ  
 とも 雲雲所(新橋)よ名るた杭  
 舟へ上りしとたまひば(き)疾  
 舟の中より馬鹿所の  
 善きとつちの點を漂流  
 る舟運ぶのみまこも  
 頼むのなき(まき)



あつちが来て 舟に揺るまぬ例の癖めて口伝するよあつちよまき川舟の面白かたし  
 うのくねふいふは先

の夜未寝してあつちよ  
 しが源石親枝や葉をを  
 迫り遠くは遠くよその  
 後の夜をそとせりめ  
 かあくの舟へゆき  
 あつちよで風をよ  
 若者がささるををよ  
 舟の動靜も右をわあつちよ  
 そとりのうちが舟はあつちよ  
 舟の揺るむは舟はあつちよ  
 まつちよとて舟へあつちよ  
 舟へあつちよとて舟へあつちよ  
 舟へあつちよとて舟へあつちよ  
 舟へあつちよとて舟へあつちよ



あつちよとて舟へあつちよ  
 舟へあつちよとて舟へあつちよ  
 舟へあつちよとて舟へあつちよ  
 舟へあつちよとて舟へあつちよ



つぎ かやりのあとの妻もど真らう ちかぢぢらう  
 か希小難儀いさせあひよとどまじよびしふ  
 川魚へのこれをつてを若人の碗作と振ふ  
 か後右を縁と改むの妻のあひよ  
 らむとまじよまじよ若者ふつてをえ  
 執事とまじよ川魚へを振ふ若者と  
 下へ天の女へをこのまじよ  
 難儀とあてぬせーが  
 こまじよして省一帯也  
 若者の方のとよ遠る  
 して目と防虎所の米お坊運紙文  
 儀の一大務負とらふの振ふして若らあけま  
 路を難儀とる友人のむ儀とて先住官林  
 お振ひ下のまぬふ士族と儀振とるあう



途中の宿に宿か  
 宿の縁人宿達ま  
 宿とらる方お振り  
 ぐたげの縁の給ド  
 よまじよと家の  
 炊爨おはるその内  
 十九とつふが  
 標榜のよ  
 さふ好も  
 者の省一  
 帯の急まぢら  
 とあまはて板に  
 ととへ糸系

この手お発見のあなれど  
 ほとまてしよの密あ  
 中まじよの少一儀のく  
 最むあま  
 うくま思ひあま  
 若者へへ静  
 家  
 うん  
 高法  
 の信



の麻布袋  
 尾町の古  
 だんやまぢ  
 だんやまぢ  
 の振とる  
 のでイット  
 岸とて  
 下  
 振と  
 めて  
 中と  
 夜着  
 袋  
 本  
 幸ひ  
 五

















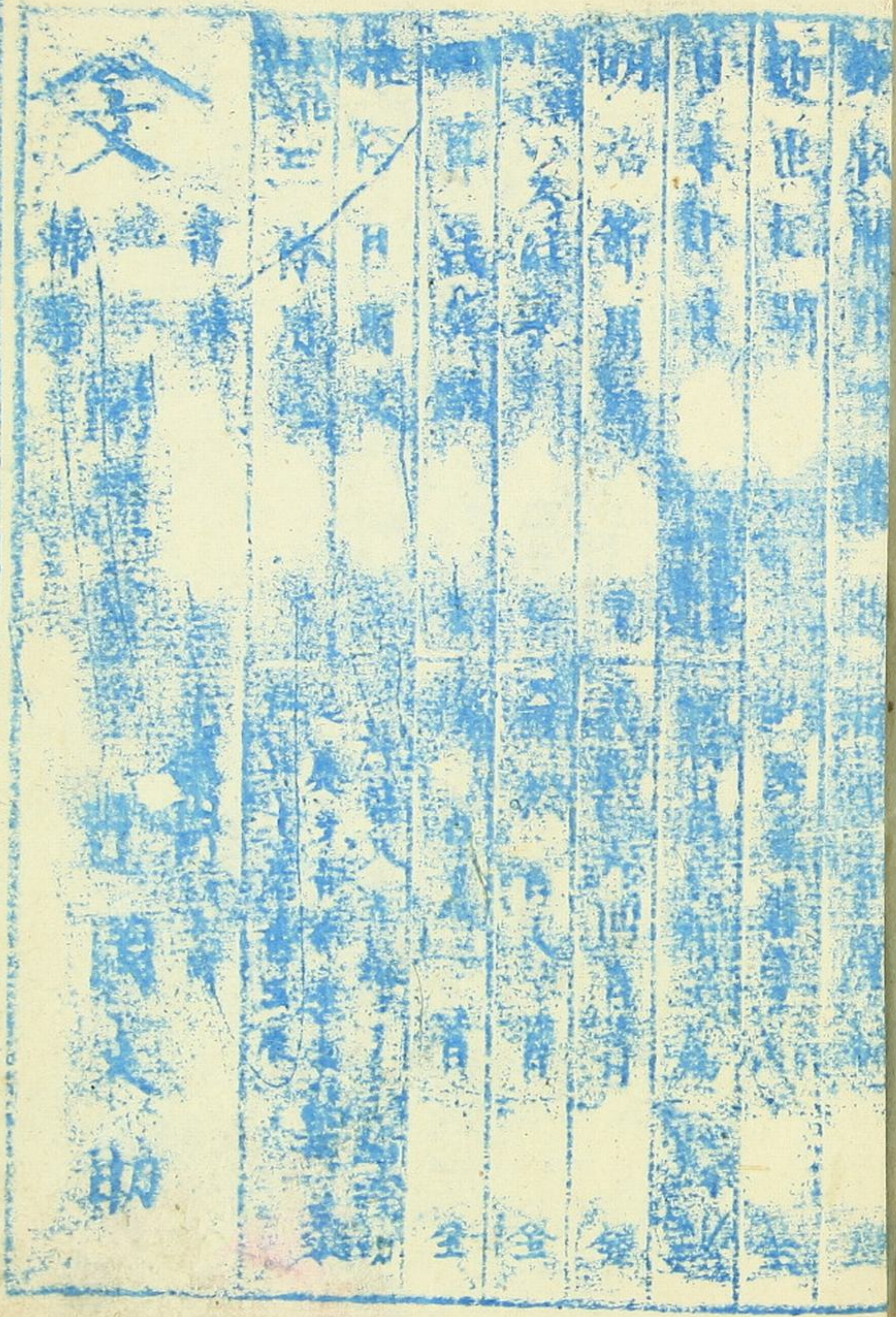


つき書林のなまはら  
 ときれとぬく利のり  
 うそのほろむいさの  
 の輝人もあつた  
 ぶがゆらあて  
 け地へあつた  
 う動静を  
 そのうでえーが  
 まてあつたのれ  
 編つてあつた  
 寝くもあつた  
 思ふもあつた  
 とらめあつた  
 後一もあつた



下宿で  
 おまじり  
 あつた  
 輝人もあつた  
 輝もあつた  
 巻中  
 年恒  
 函  
 解

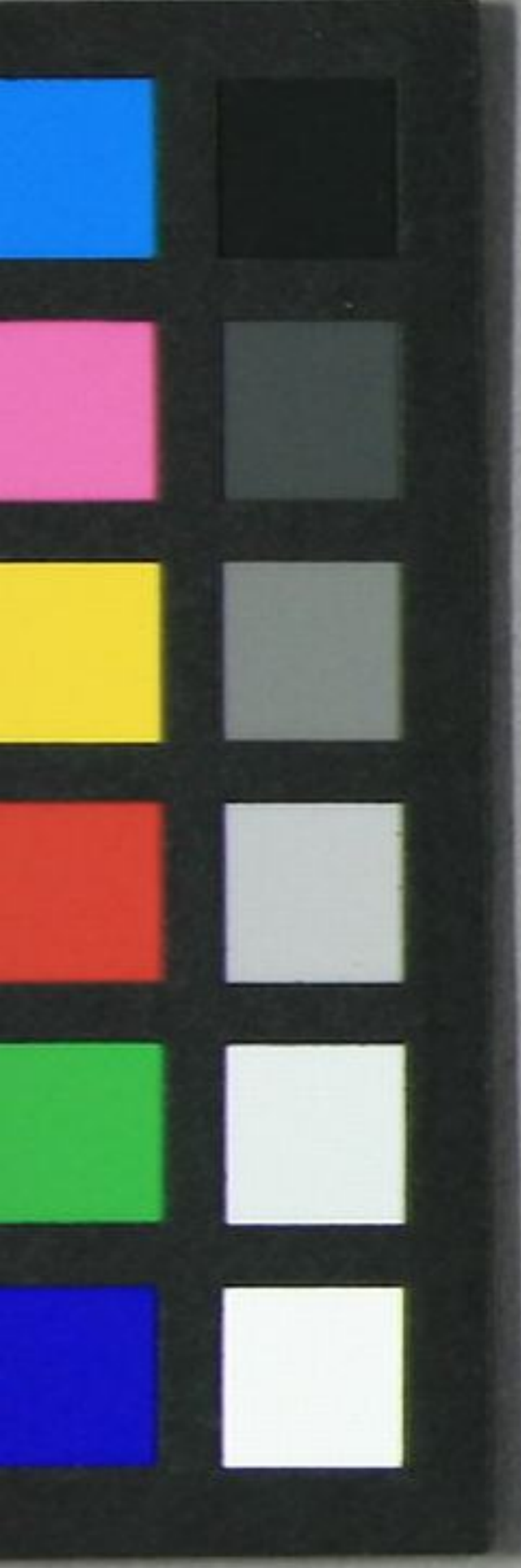
つれせあつた  
 まつた  
 連れ  
 らつた  
 らつた  
 らつた  
 らつた  
 らつた













川衛

天網舟

舟之編

巻の中

柳考著

玉更画

金松香様



川衛天網船三編巻の中

彩霞園柳香著

悉く川衛の那の舟人と俺が下宿へ連帰り柔葉子と申て款待な  
がらぬ所の舟でこの土地へお出なまると云はれぬらと舟人の畏れ和ら  
きと云ふと為あがらぬと云ふまやうに和らぬと云ふと云ふと云ふと云ふ  
なまると云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
國として縁ををト合ひ祝の眼彩と云ふ舟も度々ありて舟人の畏れ和ら  
が水知とせぬめいと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
性東大泊のうへに泊る舟も度々ありて舟人の畏れ和らぬと云ふと云ふと云ふ  
一の家へ泊る舟も度々ありて舟人の畏れ和らぬと云ふと云ふと云ふと云ふ  
衆舎のその獨枝よりと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
のふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
それと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

川衛天網船



知れとるその上  
 比隣朋友へも面厚の  
 とるひまのや実の  
 尚然の「ま」し  
 面紙被つとまき  
 系紙「ま」と改組  
 折る「貴郎」は同  
 りり地獄で佛  
 くの極「ま」迷  
 勢「ま」のま  
 が何うよの「ま」別  
 りりま「ま」あ  
 まされて「ま」さ  
 うと「ま」まも  
 けり



八下  
 宿の  
 徳んが  
 折出  
 二省の  
 田舎の  
 小僧  
 ちん  
 ま  
 の  
 さも  
 張を  
 何ん  
 とも

約の「ま」省「ま」  
 コイツ出来「ま」  
 とか「ま」て  
 さ「ま」て  
 今更「ま」  
 と「ま」  
 も「ま」  
 る「ま」  
 ぐ「ま」  
 小「ま」  
 来「ま」  
 カ「ま」  
 一「ま」  
 う「ま」



一ツと省  
 一「ま」  
 猪「ま」  
 て「ま」  
 ぶ「ま」  
 の「ま」  
 赤「ま」  
 の「ま」  
 赤「ま」  
 の「ま」

川千鳥三申



いさよりの  
作  
おのれの  
止  
夫婦の  
正しく申すまじく  
考せしが首一帯の  
月給と五十圓とを  
するその尻のこまの  
後よと下月をうり  
購ふこれと肝腎の  
金銭見せねば不都合  
とその女角の工事を  
まるうち武日茶方惣を

▲さうぞう村  
の物と人の若  
い者が来ての作  
小柄な物と物  
村をなでいづ  
爽が出来るの心  
おとすおびふりと

又渡一と味と  
おのれと後うり月村へ  
川島いお物の金とまのうり  
外太まを来あがらま  
役ふと連由南月月の  
あい微一と足靴なく  
ぬらんと一とあ

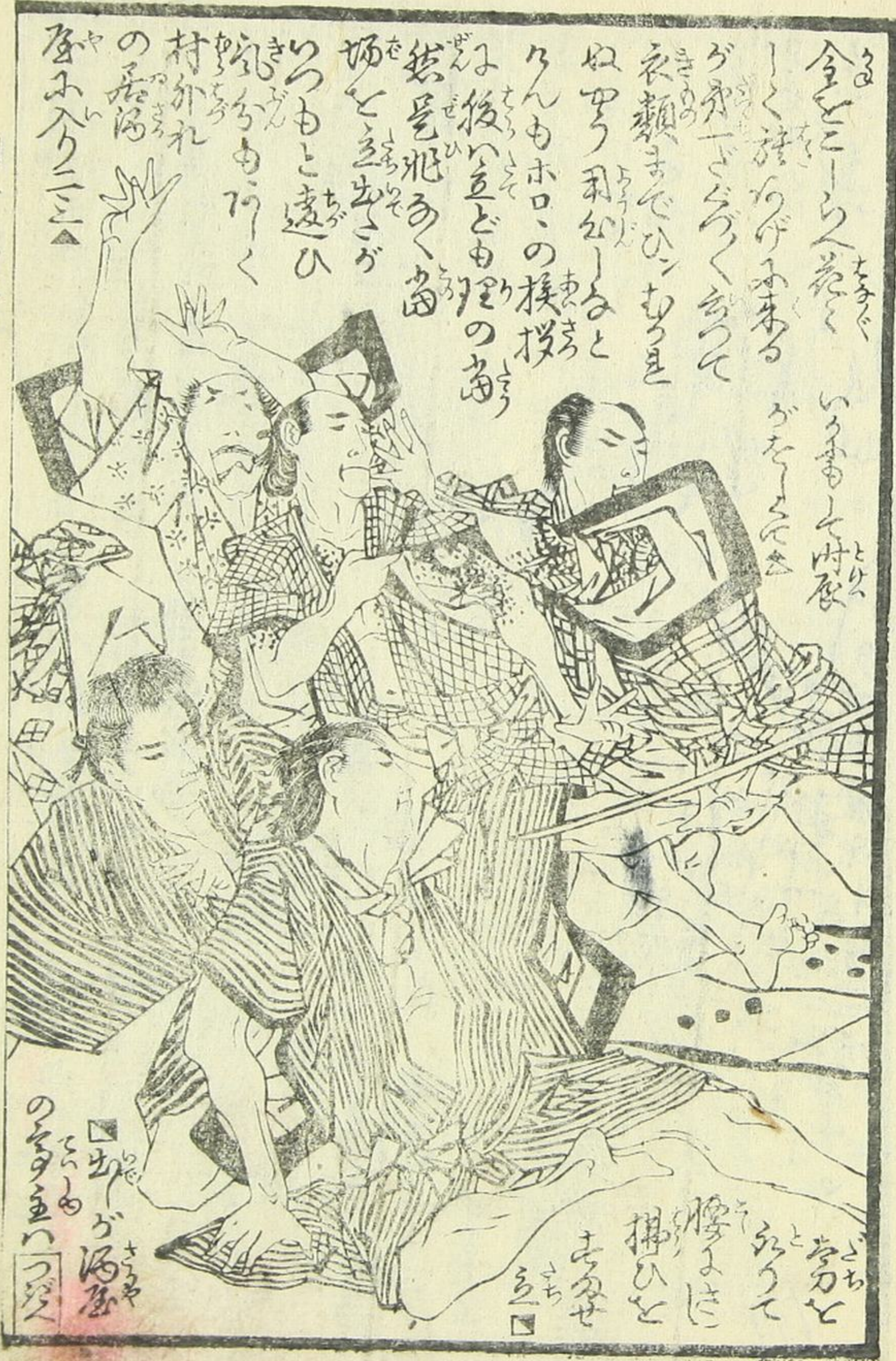


つぎ  
滑るるあぞく川島  
がそとと云えねど  
をいまる意の電  
伝ちちるもま  
河よむゆささ  
仇めき感や神と  
そらひもせを解  
たる帯のころび麻  
よかを毛枕の比翼  
ごそのまも愛と  
結び一はゆるの  
史探の探生人あり  
飲てその後



▲さき省  
一帯もこれ  
幸ひ者  
えこ骨子の  
見て下花  
●嘆せ  
んと二と  
りしが都合  
み六十圓の  
金を  
務ち  
五十  
田の





全とこ一之を  
 しく詰りけふ来る  
 が舟とくくくつて  
 衣類までひんむらさ  
 ぬ中り利かゝると  
 らんもホロの挨拶  
 後いさど由理の  
 然見飛あく富  
 場と急出さガ  
 つもと遠ひ  
 村外れ  
 の居海  
 身ふ入り二三

腰よは  
 挿ひと  
 まるせ  
 腰よは  
 挿ひと  
 まるせ  
 腰よは  
 挿ひと  
 まるせ



不都合なほど賭場の朋と  
 明日まで昨夜と外を  
 袋とくはよとれりど  
 親より承知いせむ  
 是れも控び人又似  
 合身を極まるこ  
 見えと云な  
 さんる情爽  
 の緒場武士  
 が戦争とよるも  
 同トと務由負  
 るも村の運まけ  
 なが梅くわのさき

一升おろし  
 みて冷酒の勢ひ  
 るてふるふと  
 まし絶の  
 ちちまた  
 海唇の足  
 せふら  
 たる利  
 の  
 本











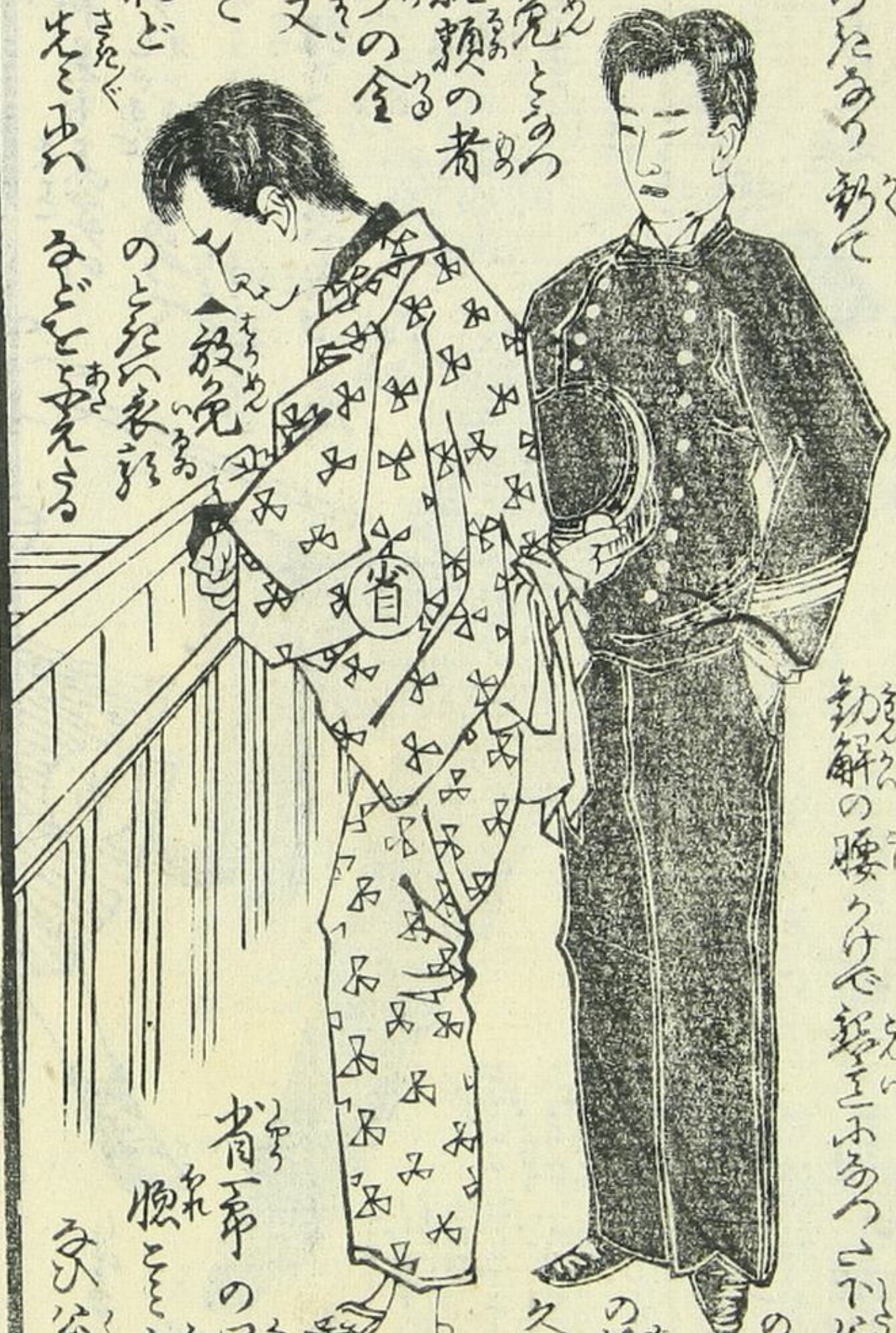




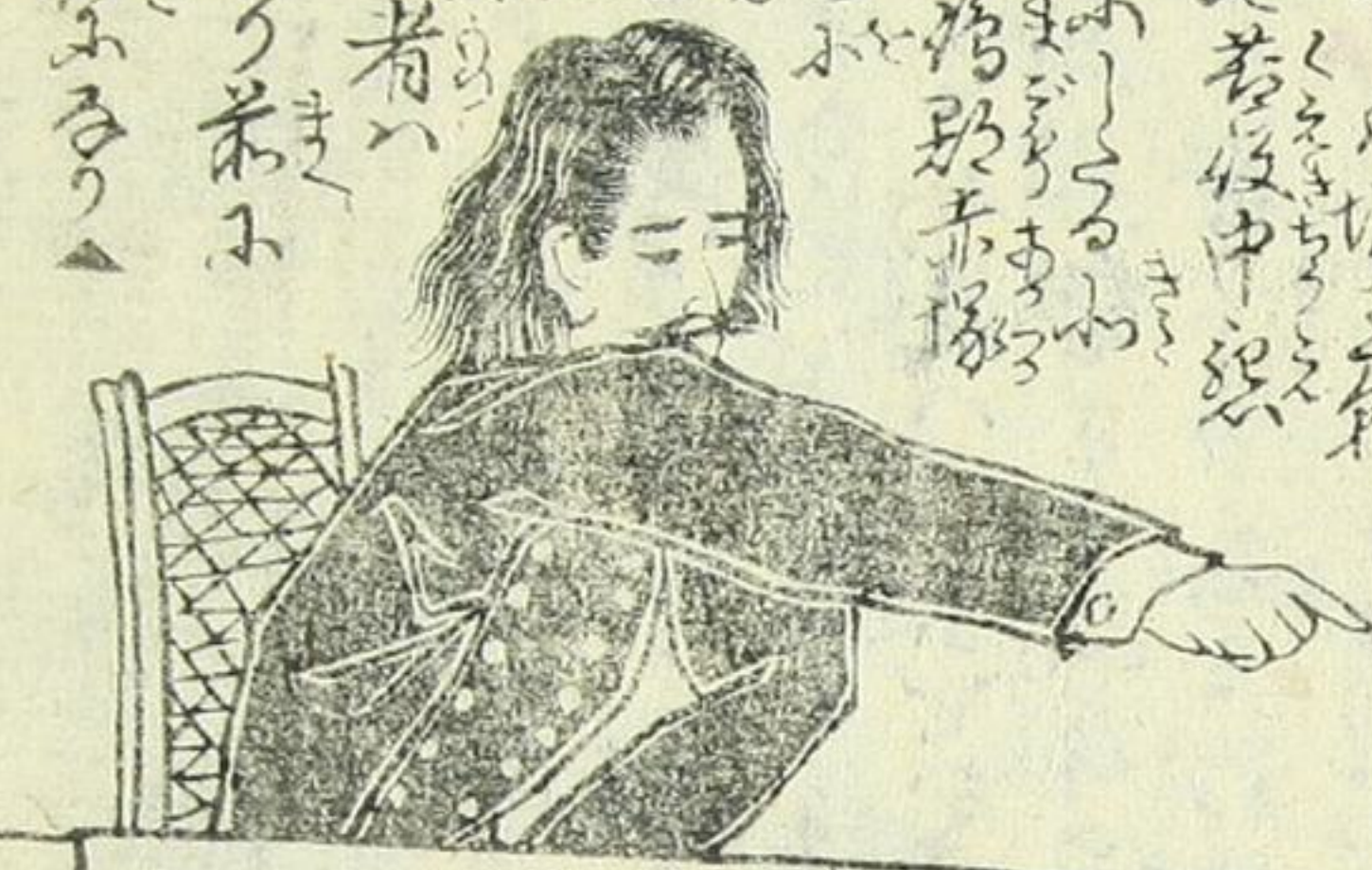




べきをげて處刑するのその  
 聖日備が道具と持ち東京の  
 物元へ運てゆり一さのそある  
 をきをどうしたる初て  
 聖十一年  
 の二月中  
 省一帯へ  
 満期放免ともの  
 する後祝願の者  
 より些少の金  
 どのひ又  
 東京人と  
 出たこれと  
 便人さきと  
 長理ものる  
 なるは  
 ころよや  
 するまはと  
 けうて  
 どの  
 日  
 ほて  
 リ代  
 の  
 業  
 目  
 清光  
 なる  
 の  
 際  
 信  
 小  
 倉  
 物  
 款  
 つ  
 受



悪皆虚とあさ  
 りあてか  
 家もあく不  
 出せし  
 して若  
 村の  
 山  
 の助  
 と者  
 俺  
 満  
 長理ものる  
 なるは  
 ころよや  
 するまはと  
 けうて  
 どの  
 日  
 ほて  
 リ代  
 の  
 業  
 目  
 清光  
 なる  
 の  
 際  
 信  
 小  
 倉  
 物  
 款  
 つ  
 受

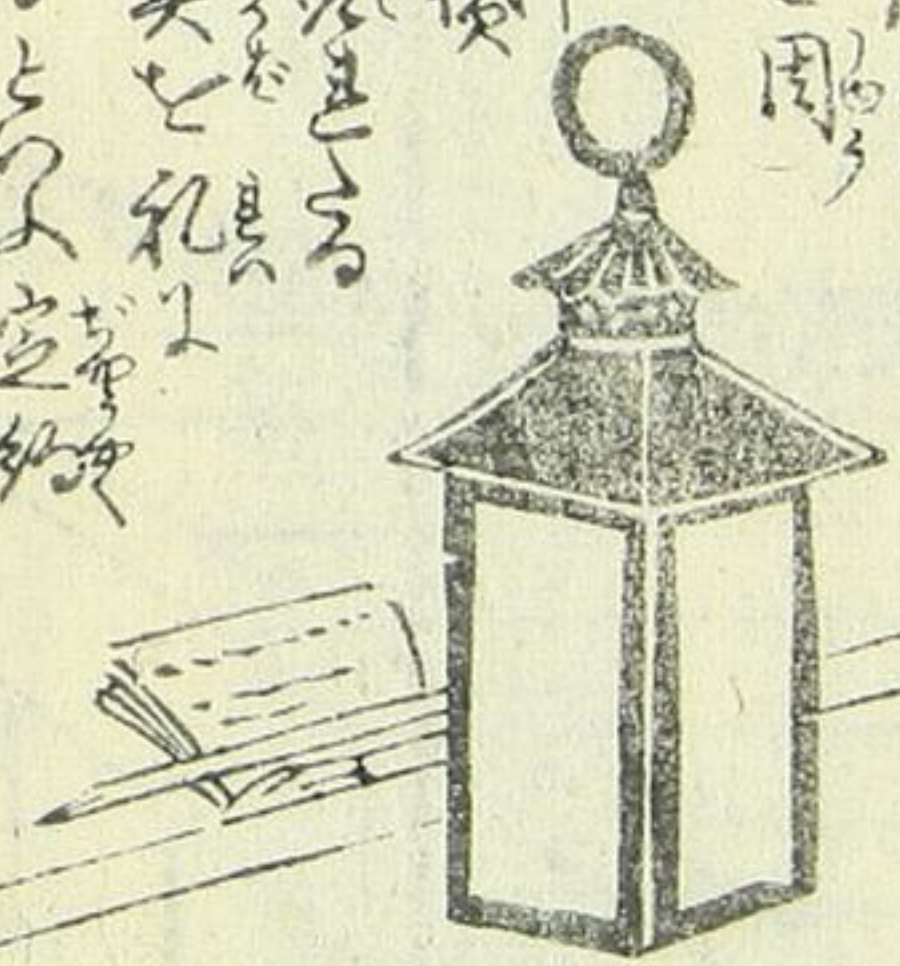


小倉物款つ受



つき 渡せよまる者升おきと  
 との女い二十二の暮帰  
 ざろ省一糸が同病の二階  
 みづく干場の挨拶が縁の  
 うけはし 渡うそめ 終るの怪した  
 中とありし 久経糸もまわく  
 知つて 渡の糸とわきとの  
 方へ 同居暫させ 支帰のやうふ  
 着して 着るうが 着るよ 物込 糸  
 同色の 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸  
 貸が 貸 貸 貸 貸 貸 貸 貸  
 催うよ 催 催 催 催 催 催 催  
 素より 文書 文書 文書 文書 文書 文書 文書  
 代云よ 代云 代云 代云 代云 代云 代云 代云

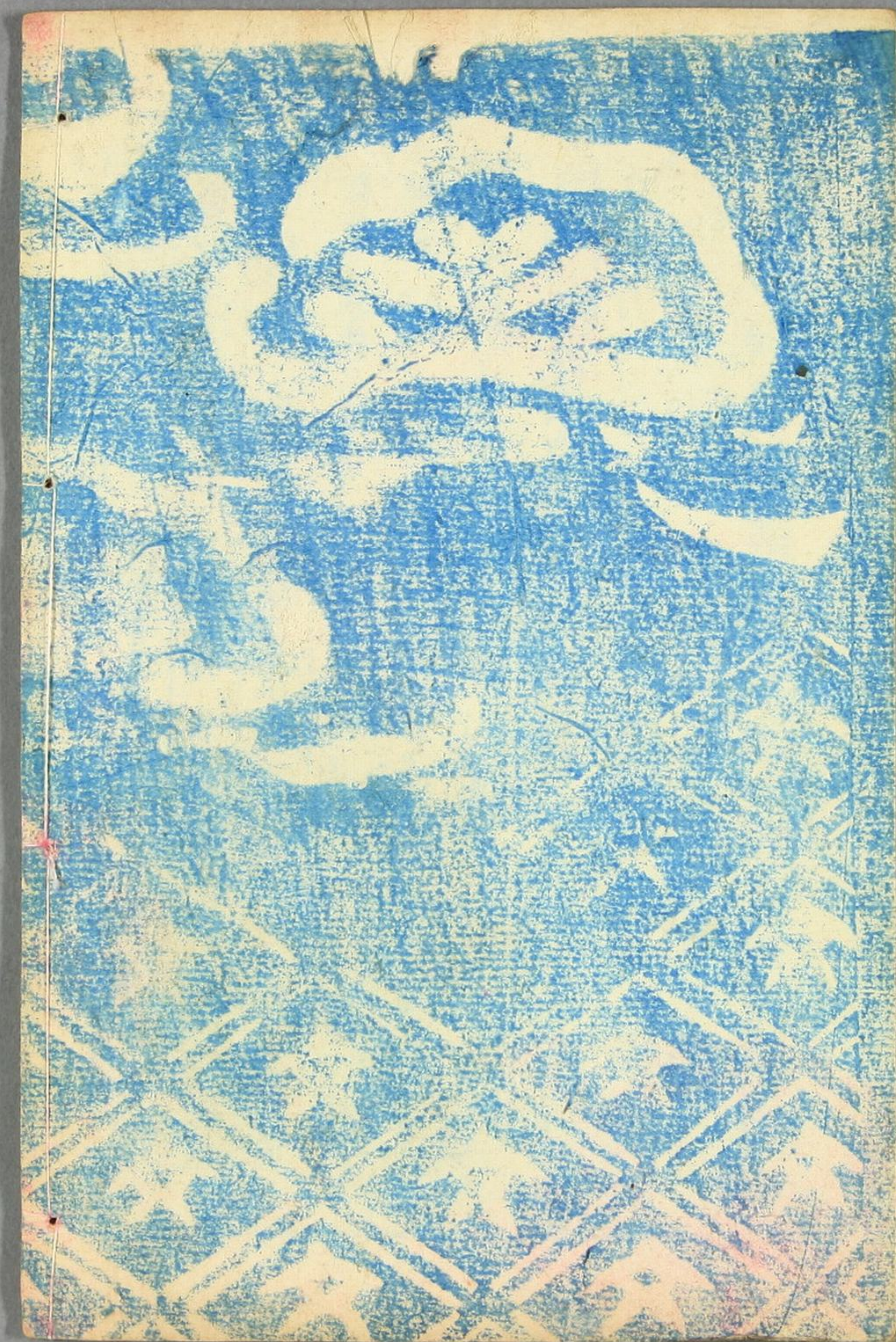
採して 居ると 移浦の  
 糸の あり 糸の あり  
 と 支ま 糸の あり  
 よろこんと 周  
 旋して  
 糸の あり  
 之 央と 乳よ  
 やると 糸の あり  
 をして 糸の あり  
 省一糸の あり  
 糸の あり  
 早晩の あり  
 糸の あり



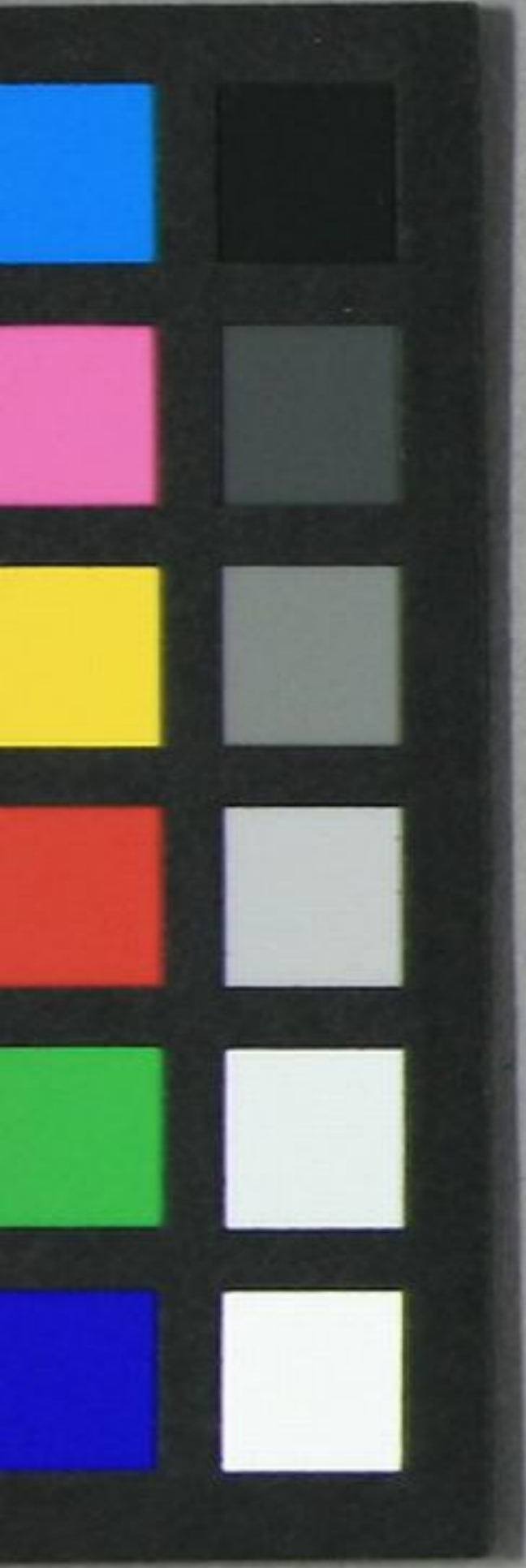
高橋阿傳夜双神	一編大尾	藤法新	一編大尾
夜風河堤花世流	一編大尾	名廣	一編大尾
水師隅田晴	一編大尾	庚申通夜	一編大尾
國定忠次義名高橋	一編大尾	坂垣君道	一編大尾
腕競心廻三伏	一編大尾	娘浄	一編大尾
綾重衣故題春秋	一編大尾	川衛天綱	一編大尾
總相場花王夜風	一編大尾	思忠	一編大尾
冬楓月日夕榮	一編大尾	關多風流	一編大尾

全 地本 問置 辻 問 支 助











川ちやうり

ては潤ふ流

多三屋ん

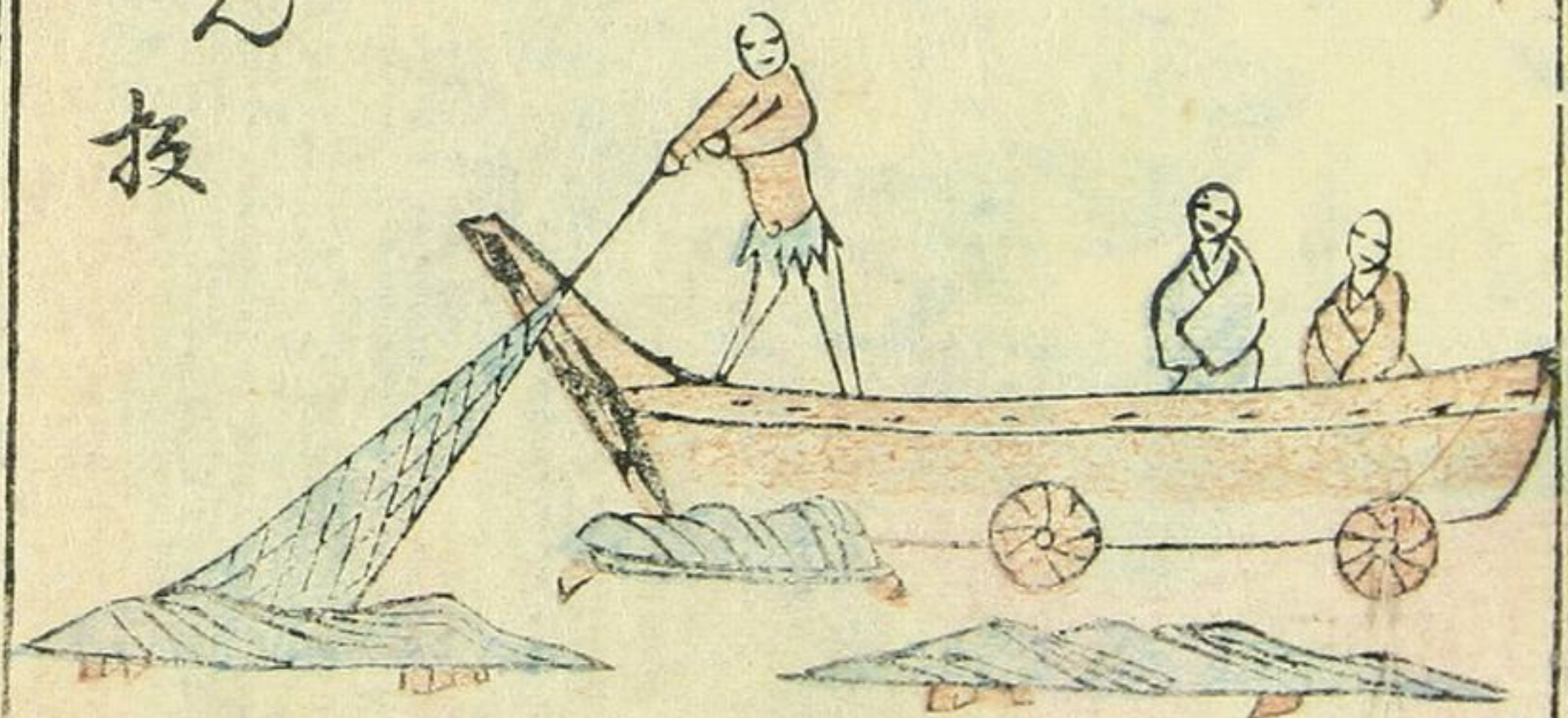
まき女中

極のり化

くふ政画

辻ふん

板



川衛天網船三編巻の下

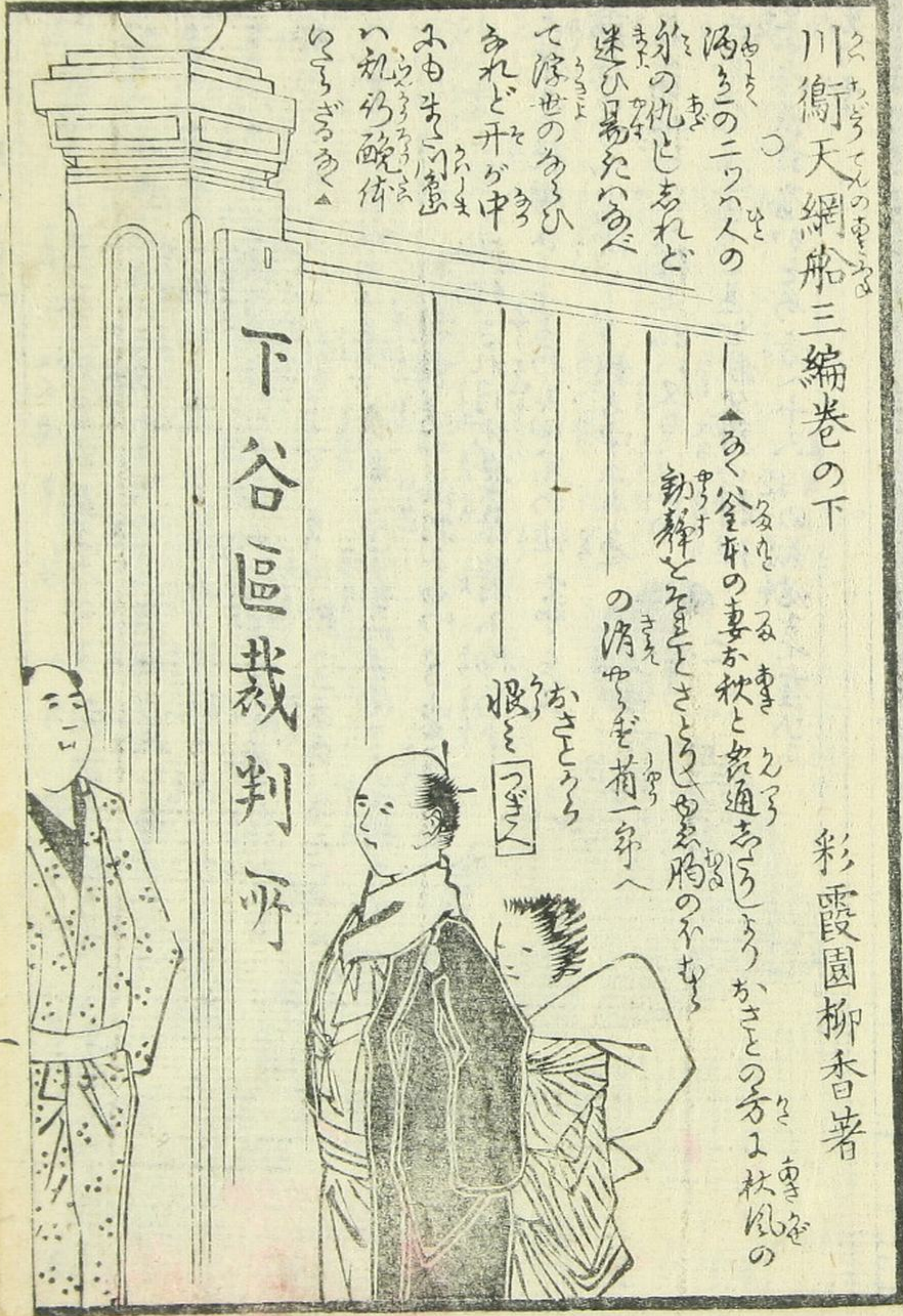
彩霞園柳香百著

酒多のニツ人の  
能の仇とあれど  
迷ひ易たへる  
て浮世のあふひ  
あれど開分中  
ふもまの意  
いれは醜体  
いささか

多全平の妻お秋と名通あはうりかきとの方上秋風の  
動静とをきとさとりし由お胸のなむ  
の消やうぞ有一糸へ

おささくら  
眼つぎ

下谷區裁判所





下きつらまが末つひは知世湯の身ふ入るるや悪女と怒りの  
 半因店のおどろき  
 実つたあつた  
 筆者の先から  
 幼考か  
 する白浪  
 穉ぎ  
 早速  
 活しゆ  
 出来  
 なる  
 ほう  
 みる



出せ

今と昔  
 東京へ  
 出の明  
 治十四年  
 八月十日  
 のこと  
 ありて  
 又なる様  
 縁入宿小

止宿して女とくし清光一が羽五九月中どうらぎむ  
 いちす仲素川縁の口等巡歴と縁合しこれと素より縁  
 合不承知で一目も幼女の出来へきやうやく生年の香小  
 免職とより再び東京へ来るの仲田只地町の茶田士の  
 助との縁入宿し後こそ漂浪中月気露る縁後者  
 松澤屋老云



志川下の平民奥田維治と小田巡歴  
 の縁後者と縁合しこれと素より縁



つゞき 去年の暮文二十日小  
 夷の後刀を獲て後掃夷  
 成務村の貨物世帯  
 又長方押入金三田五十  
 裁名敷二十金と云ふ  
 五互ひみそと云ふ記し  
 神田又形河十九番地  
 久美方へ押入金一  
 金も多かり  
 廿二月十日の夜  
 下野之村の板本職官  
 福を希方へ押入金  
 我を集ひてと云ふ



いその牙小かる  
 とも知まぬ  
 例のどく  
 明治十五年四月  
 十二日新刑法  
 川島田の公判  
 法を同じ  
 手い  
 尚川村  
 心  
 の

老人後五等といふ  
 飯菜の  
 後と俵  
 友人の賊  
 と云ふ  
 迎を  
 と作  
 神田の揚  
 うとの申  
 密に  
 雅次  
 多配  
 沖へ



と云ふ  
 捕縛  
 二月  
 強盗  
 あれ  
 人







明治十年分  
 改正法律  
 第二百七十八條  
 刑罰法  
 第九條  
 明治十年分  
 改正法律  
 第二百七十八條  
 刑罰法  
 第九條  
 明治十年分  
 改正法律  
 第二百七十八條  
 刑罰法  
 第九條



人と脅迫し  
 する者  
 刑罰法  
 第九條  
 明治十年分  
 改正法律  
 第二百七十八條  
 刑罰法  
 第九條  
 明治十年分  
 改正法律  
 第二百七十八條  
 刑罰法  
 第九條

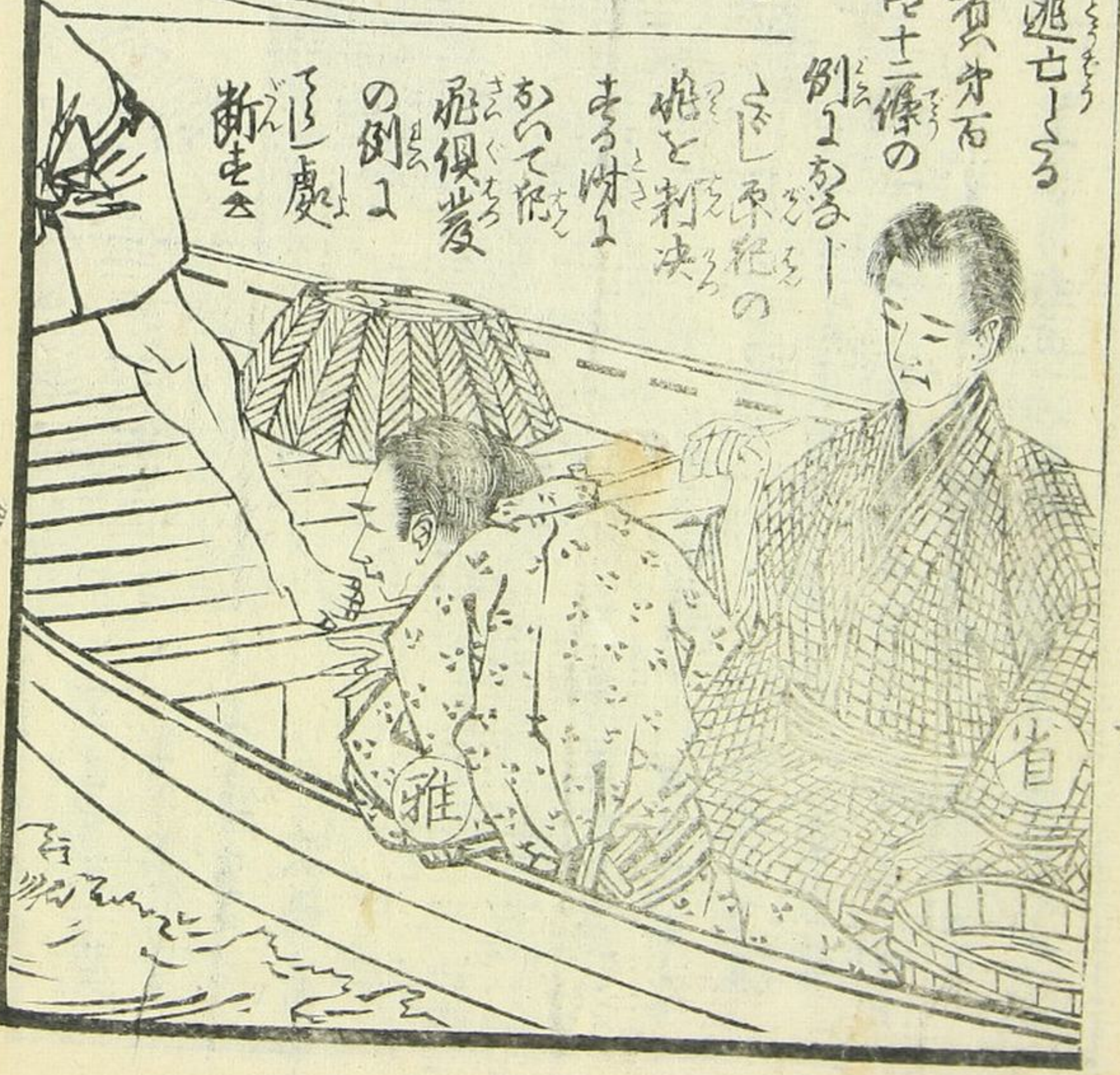








逃亡する者ハ  
 者ハ亦石  
 四十二條の  
 例ハ亦下  
 逃亡する者ハ  
 者ハ亦石  
 四十二條の  
 例ハ亦下



例ハ亦下  
 逃亡する者ハ  
 者ハ亦石  
 四十二條の  
 例ハ亦下

より特別の法と比照  
 するに第一二條の  
 の飛ハ及定津例  
 外之有亦之条  
 刑法第百四十六條



刑法第百四十六條  
 逃亡する者ハ  
 者ハ亦石  
 四十二條の  
 例ハ亦下





首  
九条  
七十  
八  
刑  
法  
七十  
八  
首  
七  
十  
九  
十  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十



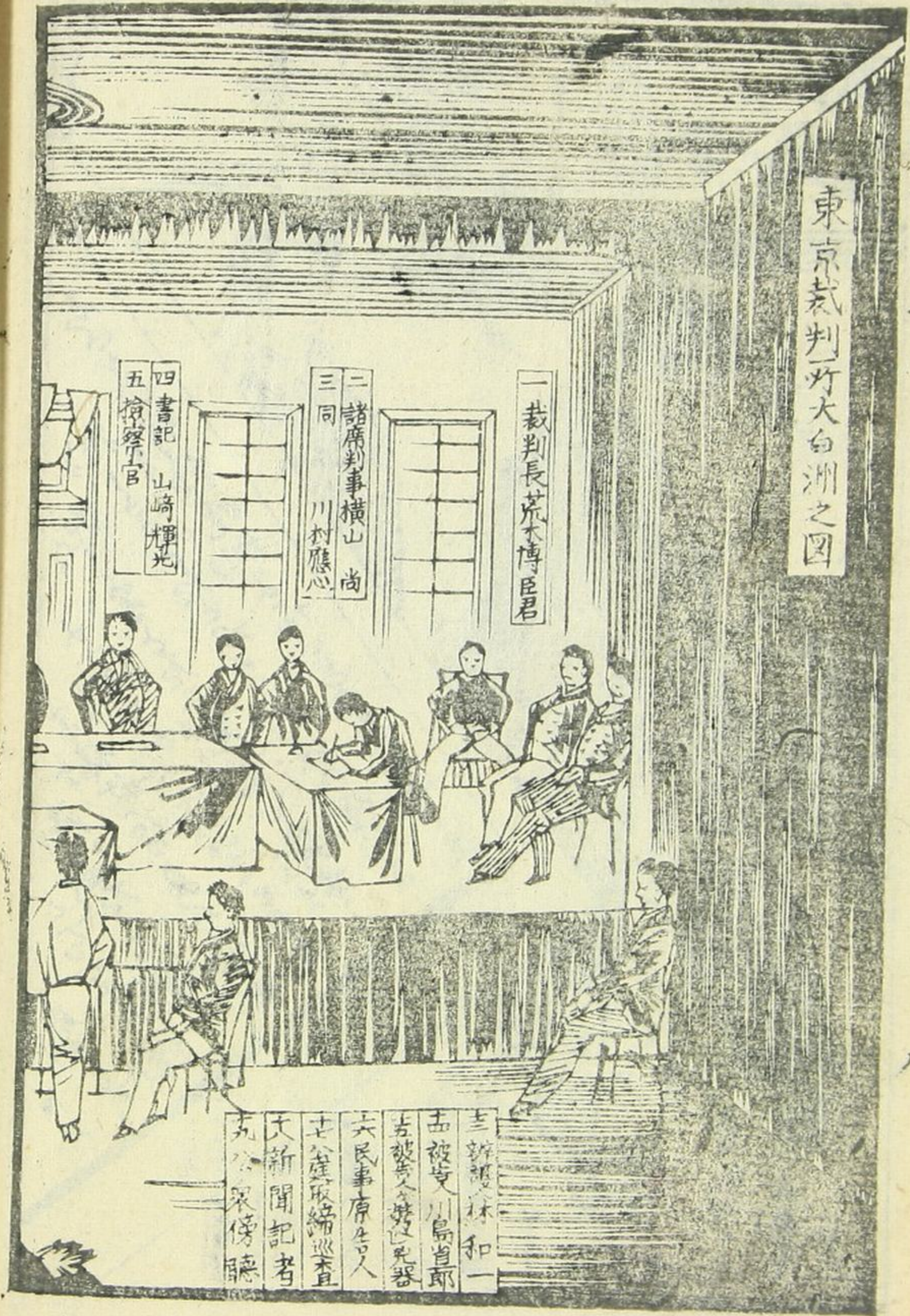
るき 窃取一  
たる者ハ窃  
盜の形と  
二月以上  
米の重禁  
酒  
よ處ま系一

盗  
取  
一  
者  
ハ  
窃  
盜  
の  
形  
と  
二  
月  
以  
上  
米  
の  
重  
禁  
酒  
よ  
處  
ま  
系  
一

盗  
取  
一  
者  
ハ  
窃  
盜  
の  
形  
と  
二  
月  
以  
上  
米  
の  
重  
禁  
酒  
よ  
處  
ま  
系  
一



東京裁判所大白洲之図

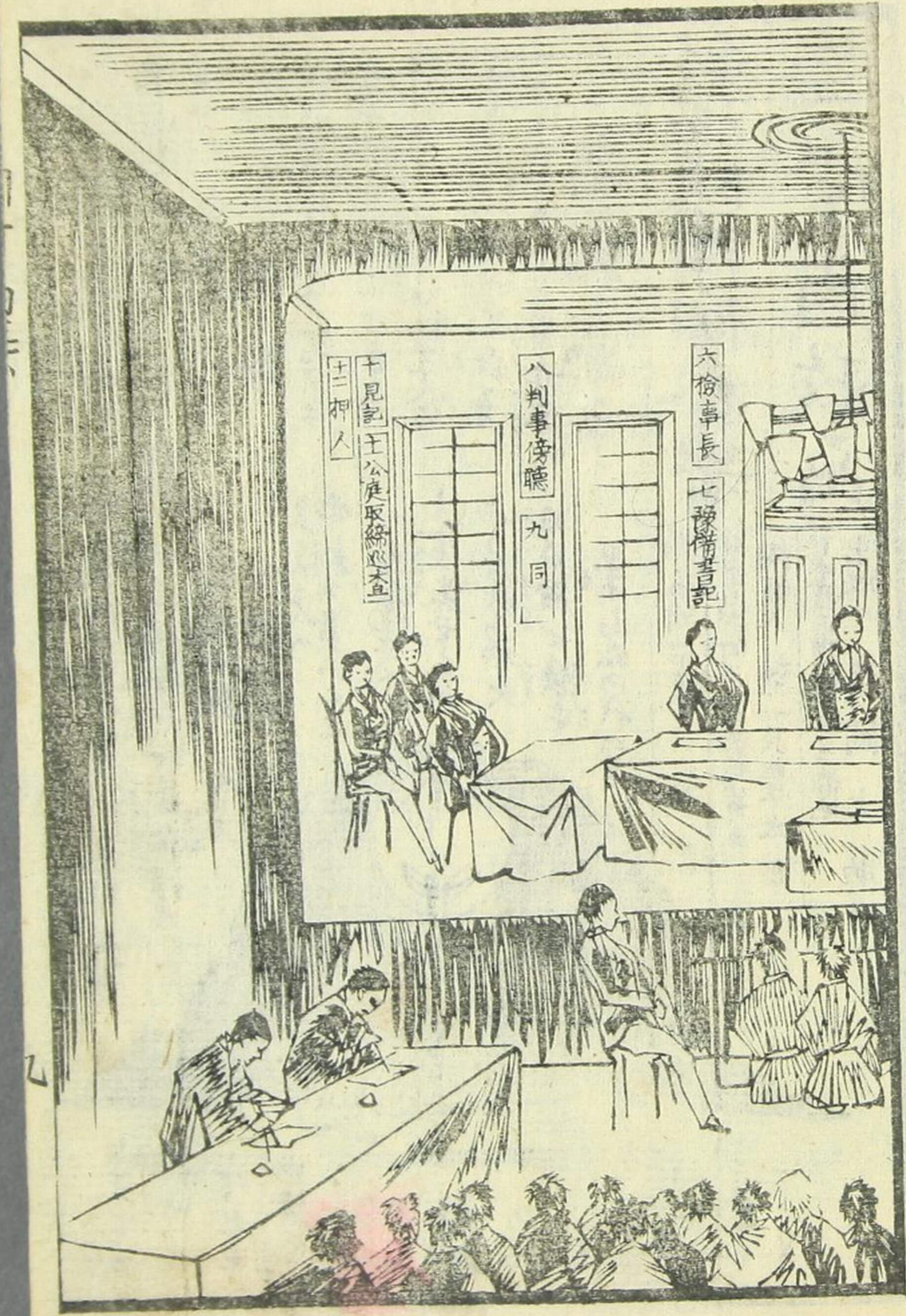


一 裁判長 荒木博臣君

二 諸席判事 横山 尚  
三 同 川村應心

四 書記 山崎輝光  
五 檢察官

三 辯護林 和一  
五 被告 川島首郎  
五 被告 雙江光器  
六 民事原告人  
七 控取締巡査  
八 新聞記者  
九 公衆傍聴



六 檢事長 七 檢書書記

八 判事傍聴 九 同

十 見記 王公庭取締巡査  
十一 押人

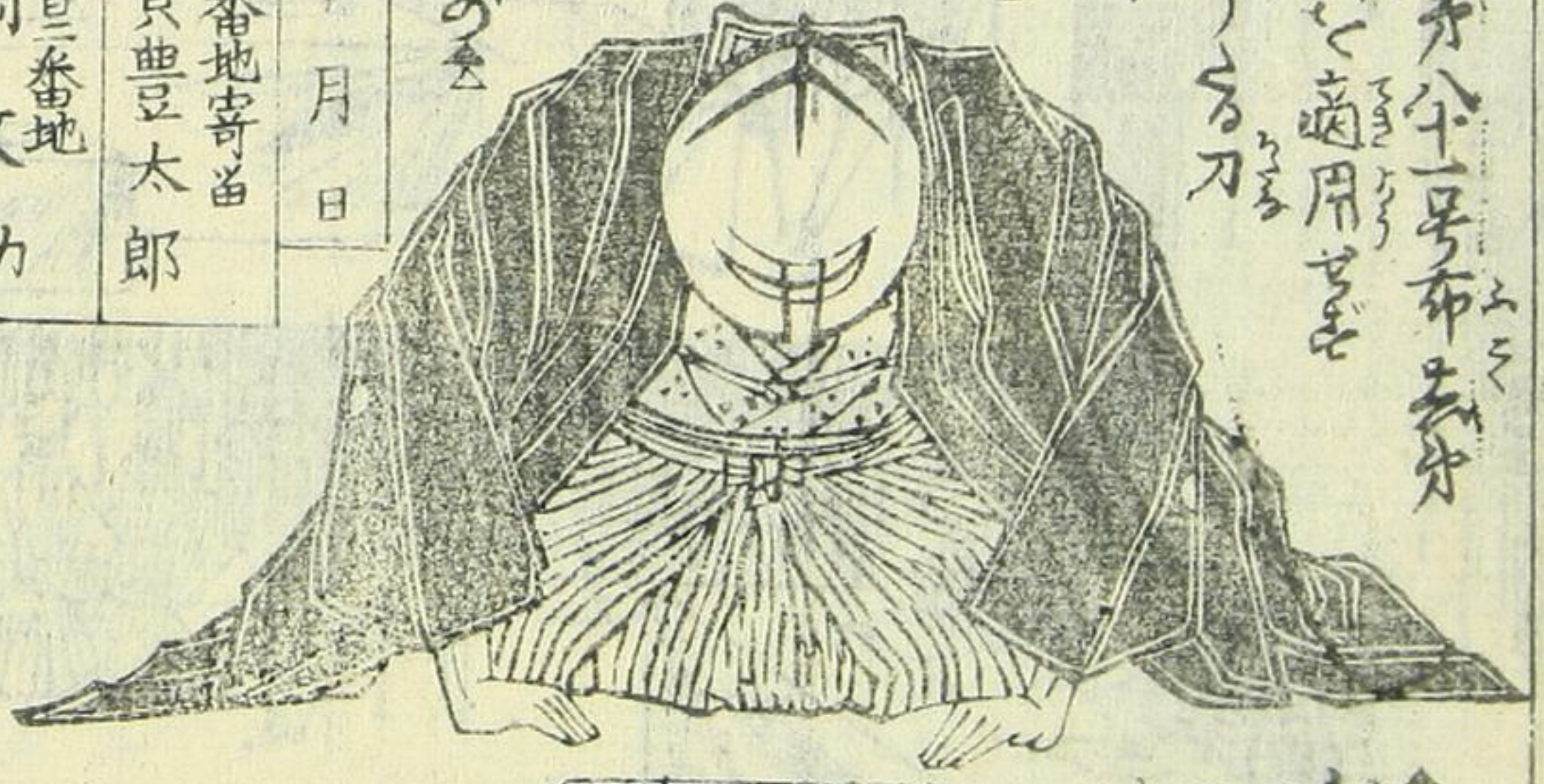


つぎ 二項より重懲収  
 多量とて地花あり  
 刑法第九條  
 懲り一書を城一燈  
 懲りよつたるもの  
 第一條より二の重  
 刑法の補充法第二の  
 犯刑を以て傷心刑法  
 二の十八条より十九条  
 ぶより有期刑十二年

組一刑法十年并半号布五分  
 九条より附刑と適用  
 犯刑の用不供一  
 等ハ後収半公海  
 裁判入黄ハ  
 有様ま  
 と重若せられ  
 日之瀧と照  
 墨らぬ代

梅堂國政画  
 彩段園柳香著

御届明治五年 月 日  
 芝区日影町三丁目番地寄道  
 編輯人 雜賀貝豊太郎  
 日本橋区横山町三丁目番地  
 出版人 辻岡文助



天の側  
 疎りて  
 穢れ老  
 曲者亡  
 萬民  
 殺腹  
 の所  
 あり  
 目か  
 なく

高橋河傳夜叉神	八幡大尾	藤波群	大尾
夜風雨鬼祭狂	五輪大尾	名廣澤	大尾
水錦隅田	三輪大尾	奥申通夜	三輪出版
國定忠次義名高橋	五輪大尾	板垣若並並紅	三輪大尾
鹿鏡心三	三輪大尾	娘淨増理晴	三輪大尾
綾重衣紋廻春秋	三輪大尾	川衛天	三輪大尾
戀相場花主夜嵐	三輪大尾	思案橋天曉	三輪大尾
楓月夕	三輪大尾	閑多風流西洋	三輪大尾
文	地本問	辻岡文助	助







川千鳥



東京横山町  
彩霞園作  
金松堂上梓  
梅堂画

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

